

沖縄大学長期ビジョン
OKIDAI VISION 2028

地域がキャンパス
地域のキャンパス

沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります



- <法 経 学 部> ・法経学科
- <人 文 学 部> ・国際コミュニケーション学科 ・福祉文化学科 ・こども文化学科
- <健康栄養学部> ・管理栄養学科(2019年度開設予定)
- <大 学 院> ・現代沖縄研究科(地域経営専攻/沖縄・東アジア地域研究専攻)

地域共創・未来共創の大学へ

創立 50 周年を、沖縄大学は安定と発展の時代として迎えた。

文部科学省が展開した GP－全国大学の模範となる優れた取り組みを顕彰し援助する事業―を 7 つのプログラムで採択され、「教育の沖大」を誇りを持って自称することができた。地方大学としては、異例の成果であり、沖縄大学が現代日本の教育の弱点を解明しそれに対する処方を示すことができる大学であることを文部科学省が認めたのである。

また現在人気学科となっているこども文化学科が発足したのも 50 周年の前年である。

50 周年から今日にいたる 10 年間、地域共創・未来共創の大学として確かな歴史を刻んできた。

地域研究所が地域共創の活動拠点とあることを組織的に明確にし、内部に地域共創センターを置き、所長の下副所長二人体制を確立した。研究においては、地域研究所とともに現代沖縄研究科が両輪となって地域研究を担っている。地域研究の実績の上に、文科省の補助事業である私立大学研究ブランディング事業「沖縄型福祉社会の共創」は、わずか 40 大学の一つに選ばれ、60 周年に花を添えている。

教育の面においては、こども文化学科を中心に教員採用試験は年度ごとに合格者を増やし、2017 年度は 38 名の大量合格を出し、学生を伸ばすことのできる大学として社会的評価を獲得している。学生支援課が主導する「チャレンジ沖大生」、地域研究所が主催する「琉球弧研究支援プロジェクト」など、沖縄大学憲章に宣言する「学生を大学の主人公にすえ、学生の可能性を最大限に引き出し、学生の主体的な参加を得て、更に活力ある沖縄大学」へと、全学レベルで組織的取り組みが行われてきたことを示している。

施設面においては、長田第二駐車場の取得、大学本館体育館の新築（50 周年事業）、沖縄大学アネックス共創館の供用など格段の整備が行われた。

2018 年、沖縄大学は還暦を迎える。法経学科の教育改革、健康栄養学部の開設等新しい発展を展望しつつ 70 周年に向けた船出をしようとしている。

長期ビジョンは、沖縄大学憲章を戴きつつ近未来である 10 年後の輝かしい未来像を描くものである。学生、同窓生が誇りある大学を手を取り合って築きたいと決意している。

2018 年 6 月 10 日

沖縄大学学長 仲地 博

沖縄大学長期ビジョン策定の趣旨と指針

1. 趣旨

沖縄大学は2018年に創立60周年を迎えます。

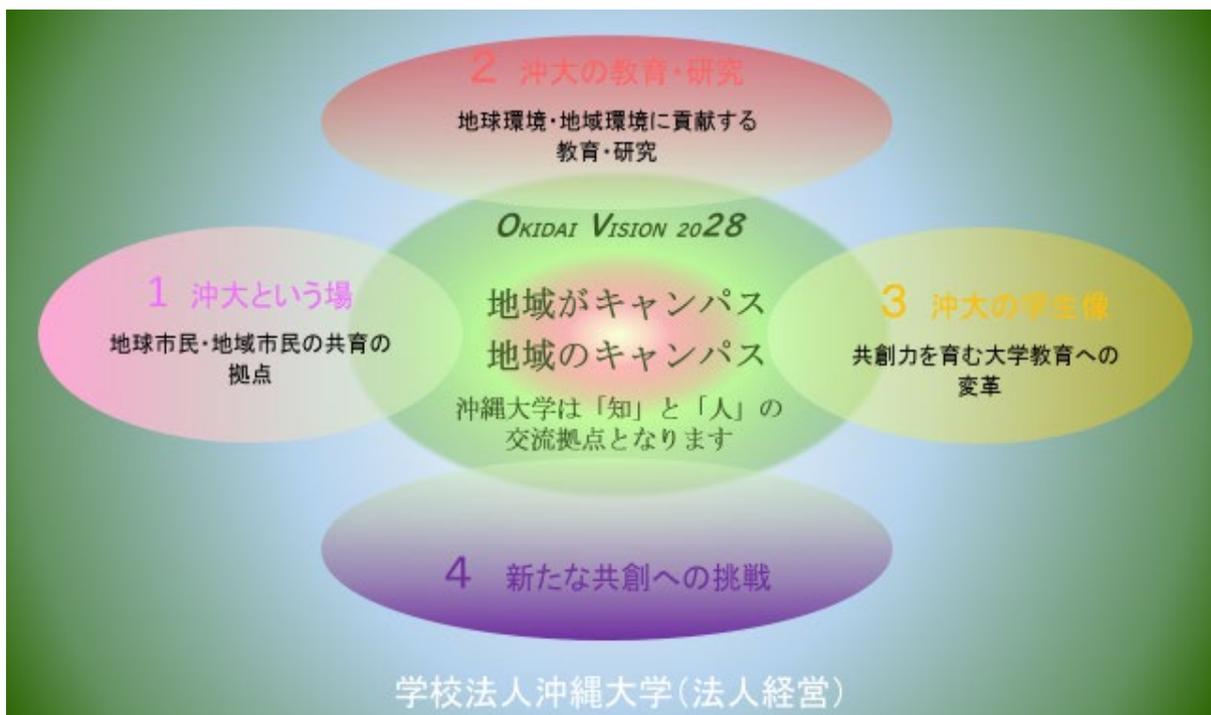
沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」の理念のもと、教育、研究、社会貢献活動により、地域と共に沖縄の未来を創っていくことを使命とする沖縄大学は、創立60周年の節目に10年後のありたい姿を長期ビジョンとして描き、教職員一同そのビジョンに向かって新しい10年を歩んでまいります。

2028年の沖縄大学の将来像「OKIDAI VISION 2028」は、「地域共創・未来共創の大学へ」を実現するための10年後の通過点です。

2. 指針

沖縄大学長期ビジョンは、1958年に沖縄大学の前身である沖縄短期大学を創設した嘉数昇氏の建学の精神「教育の機会均等を具現し沖縄教育界に貢献する」、1978年に確認された大学の理念「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」、創立50周年の2008年に宣言された「新沖縄大学宣言」（2012年に沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」へと昇華）を指針としています。

策定にあたっては、沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」の3つの目標を受け継ぎ、それらを具体化した3つの将来像と、社会情勢に合わせ新たな共創に挑戦する将来像を掲げています。



沖縄大学長期ビジョンと4つの将来像、それらを支える法人経営

沖縄大学長期ビジョン

1. 沖縄大学10年後の将来像

OKIDAI VISION 2028

地域がキャンパス 地域のキャンパス

沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります

地域を共創する「21世紀型市民」

第4次産業革命、Society5.0など、ごく近い将来、社会構造、産業構造の大きな変化が言われている。新しい社会に向けて、変化を恐れず果敢に対応する人材の育成が肝要である。同時に、社会が変化をしても陳腐化しない普遍的な教育があることを根幹に据えなければならない。それは、社会が変わっても社会とは人間で構成されているという真理に根ざすもので、そのことを沖縄大学憲章は、「21世紀型市民」として次のように述べている。

「他者との対話と協働を通じてより良い社会を創っていく力のある人間」「日々変動する社会の中で生涯学び続ける意志を持ち自らの人生を切り拓くことのできる人間」である。

沖縄大学という場

日本の大学の主要な教育対象は、20歳前後の青年層である。ただ沖縄大学の歴史において、社会人の教育には大きな実績を有し、特に夜間教育によって戦後沖縄社会を支えた多数の有為な人材を輩出した。今日夜間教育による「学士」号への需要は減少したものの、なお、多様な教育ニーズがあることに留意したい。

人生100年時代と言われる今日、人々が精神的に豊かな日常を送り、継続的に学べる環境を、大学は準備しなければならない。シニアに向けた大学院の教育、履修証明プログラム、土曜教養講座、科目等履修生など、沖縄大学は、県都那覇にある唯一の総合大学として、これらの需要に積極的に対応する責務がある。生涯教育の交流拠点となり、多様な学生が行き交う地域の触媒となる。

沖縄大学の教育・研究

大学教育がユニバーサル段階において、教員は学生の基礎的能力や意欲に応じた教育を行っている。本学においても、教員は基礎的知識を定着させる、学習の意欲を喚起する、学生の参

加を促す等それぞれの工夫がある。それを共有し大学全体として教育の成果をあげるべくFDを活性化する。特に、地域の重点課題に果敢に挑戦し解決する力を涵養する「教育力の沖大」を実践する大学となる。

大学は、研究者の集団として、社会の課題解決を責務とする。沖縄大学の創設者も「沖縄の現状における極めて大きい課題は本土復帰であろう。この課題解決を促進するためにも、…沖縄大学は、…指導的役割を果たすべき大きな責任がある」と述べている。沖縄大学憲章は、地球環境・地域環境に貢献する教育・研究を柱の一つとし、地球温暖化防止と軍事基地のない島を課題として挙げている。

2016年、沖縄大学の新しいブランドとして文科省に認められた研究は子どもの貧困などに取り組む「沖縄型福祉社会の共創」である。沖縄大学は、生まれも育ちも、地域に密着した大学であり、研究においても地域課題の解決を重視してきた。沖縄大学の研究所は、「地域」研究所であり、大学院は、「現代沖縄」研究科である。この二つを中心に、社会的課題解決の研究を沖縄大学の存在根拠とする。

沖縄大学の学生像

沖縄大学には、すでに始まっている社会の変化の中で、現実と向き合い、明日の沖縄を担う人材を養成し、社会に送り出し、沖縄社会を再生することが求められている。沖縄大学は、この使命を担っていくために地域社会のニーズを受け止め、自ら考え、そして行動できる自立した市民を育てたいと考えている。そのためには地域を歩いて考えてほしい。地域がキャンパスである。また沖縄大学は地域のためのキャンパスでもありたい。沖縄大学の学生には、大学と地域を行き来し、対話・共創・実践の中から地域の未来を語るフィールドワーカーとなることを期待している。そのために、教職員は共に連携し、学生を支えていく。

沖縄大学の新たな共創への挑戦

沖縄大学は、常に地域に必要とされる人材を育成し社会に輩出してきた。設立当初は、経済復興のための商経科、国際発展のための英語科、教養豊かな女性のための被服科から出発した。小学校教員の絶対数が不足した時代は初等教育科を設置した。

復帰後も、福祉文化学科、こども文化学科、健康スポーツ福祉専攻、現代沖縄研究科と、常に地域と時代が必要とする人材とは何かを考え、その育成を行ってきた。それが地域共創・未来共創の沖縄大学の使命であると深く認識しているからである。

2019年度、栄養士・管理栄養士の養成が沖縄社会にとって緊急の課題であることを認識し、管理栄養士養成課程を設置することになった。創立61年目に発足する初の理系学部である。これからも沖縄大学は、時代と地域が必要とする人材は何かを不断に考え、新たな学科や専攻の新設などに挑戦していくことになる。

2. 具体的な将来像

沖縄大学は創立 60 周年に際し、2028 年までの長期ビジョン“*OKIDAI VISION 2028*”を掲げます。10 年後の将来像として、沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」を具体化した 3 つのありたい姿と、新たな共創に挑戦する 4 つの姿の実現に向かって歩んでいきます。

(1) 沖縄大学という場 ～地球市民・地域市民の共育の拠点～

◆ 年齢・性・出身・職業・障がい・国籍・信条を超え多様な人々が行き交う地域のホットスポット

多様性に満ちた社会の中で、沖縄大学に集う多様な学生・教職員は互いに学び、学びを求めにやってくる地域の人々と共に学ぶ、活気あふれるキャンパスとなります。

(2) 沖縄大学の教育・研究 ～地球環境・地域環境に貢献する教育・研究～

◆ 持続的発展を目指し、自治体・経済界・地域社会と連携しながら地球と地域の重要課題に果敢に挑戦する教育・研究

地域の重要課題に取り組む研究は地域のシンクタンク機能となり、地域の課題に向き合う教育は人類共通の課題である持続可能な開発目標（SDGs）へつながります。

(3) 沖縄大学の学生像 ～共創力を育む大学教育への変革～

◆ 大学と地域を行き来し、対話・共創・実践の中から地域の未来を語るフィールドワーカー

沖縄大学の学生は大学で学び、地域で学びます。教職員、卒業生、地域の人々など多様な学びの主体と積極的に交流し、共に学び、歩きながら未来を考えます。

(4) 沖縄大学の新たな共創への挑戦

◆ 小さな大学の機動性を活かし、時代と地域の要請にスピード感を持って応える大学

夢や憧れを胸に対話を重ね、社会の情勢をよく見、変化を恐れず、他の大学にはない特色ある大学として地域からの評価を得ます。

◆ 同窓会、後援会と大学が一体となり、地域の中核人材を輩出し続ける大学

「ピカリと輝く大学」（同窓会長）、「キリッと辛い大学」（後援会長）の想いを大切にして、同窓会・後援会と強く連携し、地域で活躍する学生を育てます。

◆ 学生が誇り高く躍動し、地域が共鳴して新たなステージを創り出す大学

「沖大アイデンティティ」を醸し出す多様な活動に学生が挑戦し、地域がそれを見守り、また参加してくる求心力ある大学を創ります。

◆ 教職員が互いを尊重し、一丸となって力を発揮できる職場を創り、学生の成長を支援する大学

沖縄大学の教職員は互いの多様性を尊重し、心を合わせてより働きやすい職場環境を創り、もって学生の成長に最大の関心を寄せます。

3. “OKIDAI VISION 2028” の実現に向けて

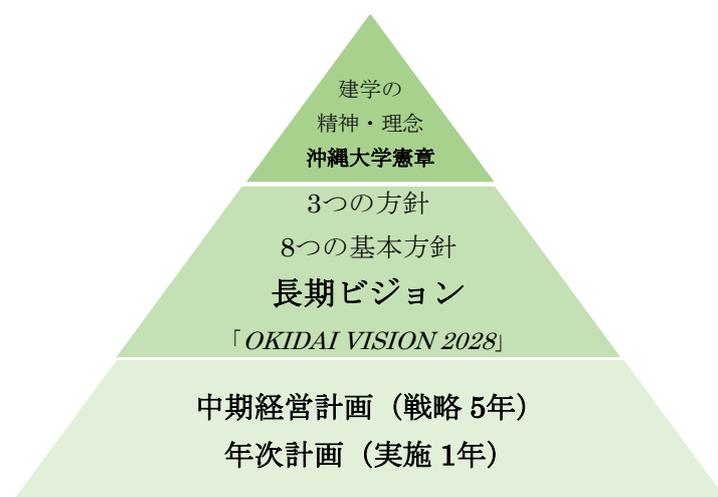
(1) 法人の将来像：法人は、経営面から沖縄大学の活動を支えます。

◆ 激変する社会環境に柔軟に対応し得る組織改革と経営基盤の強化

大学を取り巻く社会情勢が厳しさを増す中、様々な課題に迅速に対応するため、法人全体のガバナンスを強化するとともに、修学環境の向上に資する計画的なキャンパス整備と適正な人事管理体制の確立及び柔軟性・機動性のある組織改革を推進し、更なる経営基盤の強化を実現します。また、将来展望の中で、社会が要請する学部学科の新設や公立化の可能性等、沖縄大学の在り方について多面的な検討を行ないます。

(2) 中期経営計画で実現に向けた重点課題・基本課題を設定し、年次計画で実行します。

長期ビジョン「OKIDAI VISION 2028」は、第五次中期経営計画（2019年～2023年）及び第六次中期経営計画（2024年～2028年）の10年間で実現を目指します。



沖縄大学憲章→長期ビジョン「OKIDAI VISION 2028」→中期経営計画→年次計画

沖縄大学憲章 ～地域共創・未来共創の大学へ～

沖縄大学は「地域共創・未来共創の大学へ」を新たな大学の理念として確認し、以下の3つの目標を沖縄大学憲章として、実行することを宣言します。

(1) 地球市民・地域市民の共育の拠点

① 地球市民のための知の集積の拠点

沖縄大学の理念である「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」を大学存立の使命として深く自覚し、21世紀型社会である「グローバル社会」の要請に応える形でこの理念を「地域共創・未来共創の大学へ」と発展させ、地球大で考え足元から行動を起こす21世紀型市民である「地球市民」の共育をめざします。

② 地域市民のための地域教育の拠点

沖縄大学は、地域に根ざす大学として沖縄にしっかりと根をおろし、教育と研究の相乗効果で沖縄の活性化に尽力し、そのことを通じて学生を共育し大学の活性化を図ります。また、県都那覇市にある大学として、「人々が相互に交流し、実践し、生涯学び続ける地域教育の拠点」となることをめざします。

(2) 地球環境・地域環境に貢献する教育研究

③ 地球環境に取り組む実践教育

21世紀は、環境危機が深刻化する世紀です。地球温暖化が進行すれば、沖縄の未来も、世界の未来もありません。沖縄大学は、「エコキャンパスからエコシティへ」というスローガンを掲げる大学として、まず足元のキャンパスから始め、沖縄から世界に向けて地球温暖化防止の実践教育を展開します。

④ 地域環境に取り組む研究提言

戦争は最大の人権・環境破壊です。世界で年間150兆円も注ぎ込まれるといわれる軍事費は、貧困や地球環境問題などの地球規模の課題を解決するためにこそ使われるべきです。そのために沖縄大学は、自立した平和な沖縄を実現すべく、沖縄を軍事基地のない島とする多様な研究提言や実践に取り組みます。

(3) 共創力を育む大学教育への変革

⑤ ユニバーサルな大学づくり

現代の大学には障がいのある学生を含め多様な学生が入ってきます。沖縄大学は学生の力に依拠しつつ大学の責任を果たし、多様な学生の学びと育ちを支援するユニバーサルな大学づくりをめざします。

⑥ 人間力としての共創力の涵養

沖縄大学が育成をめざす21世紀型市民とは、「他者との対話と協働を通じてより良い社会を創っていく力のある人間」、「日々変動する社会の中で生涯学び続ける意志を持ち自らの人生を切り拓くことのできる人間」です。こうした21世紀型市民として学生を育成するために、沖縄大学の教育課程の編成にあたっては、「何を教えるか」ではなく「何ができるようにするか」を重視します。アジアの人々との共生の基盤となる異文化への関心と理解力を高めます。「競争力から共創力へ」、このスローガンのもと沖縄大学は、学生たちが互いに助けあい、教えあい、育ちあう環境を整備し、対話力・共創力・実践力のある人間の育成に努めます。

⑦ 学生主体の学びの場の共創

人は、教えられることによって育つよりも、むしろ試行錯誤を含めた実践を通じて自ら学ぶことにより育つものです。従って大学づくりにおいては、学生を大学の主人公にすえ、学生の可能性を最大限に引き出し、学生の主体的な参加を得て更に活力のある沖縄大学へと自己変革していきます。学生も教職員も、大学づくり、地域づくりの実践の中で育ち、育てられ、そのことを通じて沖縄大学は、今まで以上の高い評価を地域社会から勝ち得ていきます。

沖縄大学は、以上の3つの目標の実現に日々努め、地域共創・未来共創の大学に向け邁進します。そのことを通じて沖縄大学は、更なる発展をめざします。

(2012年10月29日)



学校法人 沖縄大学 長期ビジョン

住 所 〒902-8521

沖縄県那覇市国場 555 番地

電 話 098-832-2910 (経営企画室)

発 行 2018年6月10日